

## 利用上の注意

1 この「保健統計年報(人口動態統計編)」は平成19年の人口動態統計についてとりまとめたものである。出生、死亡、死産については平成19年中に発生したもので、平成20年1月14日までに届け出られた日本人の日本における事件を住所地別(平成19年12月31日現在)に集計したものである。婚姻、離婚は、平成19年中に届け出られた日本人の日本における事件を、婚姻は夫の住所地別に、離婚は別居する前の住所地別に集計したものである。計数は可能な限り厚生労働省の人口動態確定数を用い、公表されていない計数については県医務課集計によった。

### 2 用語の解説

自然増加数	出生数から死亡数を減じたもの
乳児死亡率	生後1年未満の死亡
新生児死亡率	生後4週間未満の死亡
早期新生児死亡	生後1週間未満の死亡
死産	妊娠満12週以後の死児の出産
周産期死亡	妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの

### 3 統計の記号の用法

計数のない場合	
統計項目のありえない場合	・
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	...
比率が微小(0.05未満)の場合	0.0

(この報告書に掲載の数値は四捨五入のため、内訳の合計が総数に合わない場合もある。)

### 4 本書に用いた各比率の算出方法(人口1,000対率の場合)

$$(1) \text{ 出生・死亡・婚姻・離婚率} = \frac{\text{年間出生(死亡・婚姻・離婚)数}}{\text{10月1日現在日本人口}} \times 1,000$$

$$(2) \text{ 自然増加率} = \frac{\text{年間出生数} - \text{年間死亡数}}{\text{10月1日現在日本人口}} \times 1,000$$

$$(3) \text{ 乳児死亡率} = \frac{\text{年間乳児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$(4) \text{ 新生児死亡率} = \frac{\text{年間新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$(5) \text{ 死産率} = \frac{\text{年間死産数}}{\text{年間出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$$

$$(6) \text{ 早期新生児死亡率} = \frac{\text{年間早期新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$(7) \text{ 周産期死亡率} = \frac{\text{早期新生児死亡数} + \text{妊娠満22週以後の死産数}}{\text{年間出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)}} \times 1,000$$

$$(8) \text{ 死因別死亡率(年間)} = \frac{\text{年間の死因別死亡数}}{\text{10月1日現在日本人口}} \times 1,000$$

$$(9) \text{ 年齢調整死亡率(人口10万対)} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} \text{観察集団の各年齢} \\ \text{(年齢階級)の死亡率} \times \end{array} \right\} \times \left\{ \begin{array}{l} \text{基準人口集団のその年齢} \\ \text{(年齢階級)の人口} \end{array} \right\}}{\text{基準人口集団の総数}} \times \left\{ \begin{array}{l} \text{各年齢} \\ \text{(年齢階級)の総和} \end{array} \right\} \times 100,000$$

$$(10) \text{ 標準化死亡比(SMR)} = \frac{\text{現実死亡数}}{\text{期待死亡数}} \times 100 = \frac{\text{地域の死亡数}}{\text{(地域の年齢階級別人口} \times \text{年齢階級別全国の死亡率)の総和}} \times 100$$

$$(11) \text{ 母の年齢階級別出生率} = \frac{\text{ある年齢(年齢階級)の母が1年に産んだ子の数}}{\text{ある年齢(年齢階級)の日本人女子人口}} \times 1,000$$

$$(12) \text{ 合計特殊出生率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別日本人女子人口}} \right\} \text{ 15歳} \sim \text{49歳までの合計}$$

(都道府県別は5歳階級で算出し、5倍したものを合計している)

$$(13) \text{ 総再生産率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別女児出生数}}{\text{年齢別女子人口}} \right\} \text{ 15歳} \sim \text{49歳までの合計}$$

### 5 比率算出に用いた基礎人口

(1) 全国、佐賀県に用いたもの  
平成19年10月1日現在推計日本人口(総務省統計局) 全国 126,085,000人  
佐賀県 856,000人

┌ 男 403,000人  
└ 女 453,000人

(2) 地域別に用いたもの  
平成19年10月1日現在推計日本人口(県統計調査課) 48ページ参照

### 6 死因分類

本書では、平成7年から、WHO(世界保健機関)が定めた1990年改正の「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回修正」(ICD-10)を使用している。これに伴う死因分類の改正により、死因の年次推移は完全な内容の一致をみることはできない。